

令和5年度 大正中央中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様に説明責任を果たすことが重要であると考え、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、学校が各調査の結果や各調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、各調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにし、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 「全国学力・学習状況調査」の調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 「中学生チャレンジテスト」の調査の目的

- (1) 大阪府教育委員会が、府内における生徒の学力を把握・分析することにより、大阪の生徒課題の改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図る。
加えて、調査結果を活用し、大阪府公立高等学校入学者選抜における評定の公平性の担保に資する資料を作成し、市町村教育委員会及び学校に提供する。
- (2) 市町村教育委員会や学校が、府内全体の状況との関係において、生徒の課題改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、学力向上のためのPDCAサイクルを確立する。
- (3) 学校が、生徒の学力を把握し、生徒への教育指導の改善を図る。
- (4) 生徒一人ひとりが、自らの学習到達状況を正しく理解することにより、自らの学力に目標を持ち、また、その向上への意欲を高める。

1 全国学力・学習状況調査

学年 実施月日		生徒数 (人)	平均正答率(%)			平均無解答率(%)		
			国語	数学	英語	国語	数学	英語
3 年	学校	51	61	33	31	6.3	18.6	9.1
	大阪市	—	67	49	44	5.2	11.0	6.6
4月18日	全国	—	69.8	51.0	45.6	4.6	9.6	5.7

2 中学生チャレンジテスト

学年 実施月日		生徒数 (人)	平均点(点)					平均無解答率(%)				
			国語	社会	数学	理科※	英語	国語	社会	数学	理科※	英語
3 年	学校	46	53.3	41.0	39.3	38.5	38.9	17.4	5.8	19.8	12.3	11.8
	大阪市	—	62.3	54.2	51.9	47.8	54.3	9.9	2.9	10.6	8.0	6.2
	大阪府	—	62.1	54.7	52.2	47.6	54.2	10.3	3.1	11.2	9.0	6.5

※ 3年生の理科はC問題を選択

令和5年度 大正中央中学校のあゆみ
—結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

調査結果から

【成果と課題】

○全国学力・学習状況調査結果

- ・調査したすべての教科の正答率が全国平均から大きく下回っている。

教科平均正答率(学校/対大阪市比/対全国比)

国語(61/0.91/0.87) 数学(33/0.67/0.65) 英語(31/0.70/0.68)

<国語> ・全国と比較して、全領域で平均正答率が下回っている。特に「読むこと」の領域においては、**-17.1P**と大きく離れている。

<数学> ・全国と比較して、全領域で平均正答率が大きく下回っている。「データの活用」においては、**-25.6P**と大きく離れている。

<英語> ・全国と比較して、全領域で平均正答率が下回っている。特に「読むこと」においては、**-17.5P**と大きく離れている。

<生徒質問紙より>

- ・生徒の「自己有用感」「自尊感情」の項目が低く、「学校が楽しい」と回答している生徒の割合も低い。
- ・「1日の家庭学習時間」も少ない。
- ・「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」と回答した生徒の割合は、**98.2%**と、全国平均よりも高い。

○中学生チャレンジテスト(3年生)

- ・調査したすべての教科の平均点が大阪府平均から大きく下回っている。

教科平均点(学校/対大阪市比/対全国比)

国語(53.3/0.86/0.86) 社会(41.0/0.76/0.75) 数学(39.3/0.76/0.75)

理科(38.5/0.81/0.81) 英語(38.9/0.72/0.72)

<国語> ・大阪府と比較して、全領域で平均点が下回っている。特に「話すこと・聞くこと」の領域においては、対大阪府比が**0.76**と大きく下回っている。

<社会> ・大阪府と比較して、全領域で平均点が大きく下回っている。「歴史的分野」においては、対大阪府比が**0.70**と「地理的分野」(0.78)に比べても低い。

<数学> ・大阪府と比較して、全領域で平均点が大きく下回っている。「データの活用」においては、対大阪府比が**0.67**と他の領域に比べて低い。

<理科> ・大阪府と比較して、全領域で平均点が大きく下回っている。「粒子」「地球」においては、対大阪府比が**0.8**を割っている。(いずれも0.78)

<英語> ・大阪府と比較して、全領域で平均点が下回っている。特に「書くこと」においては、対大阪府比が**0.60**と大きく下回っている。
・経年で見ると、**国語・数学・英語においては、昨年度の大阪府比と比較すると向上している。特に数学においては、0.06ポイント上昇(0.69→0.75)**

【今後に向けて】

本校の生徒は、①理解する力が弱く、自分で考えることが苦手 ②分らないところあきらめてしまう(集中力が持続しない) ③自信がないのか、発表など自ら行えない生徒が多い という課題がある。そこで、これまでの調査結果を参考にして学校教育改善「アクションプラン」を策定し、取り組み内容を明確化して、教育活動を推進している。

今年度も「生きる力・夢みる力の育成」を重点目標に、学力向上に関わり教育課程委員会を中心に、生徒一人ひとりの基礎・基本の学力を向上させるため具体策を講じている。また、子どもが子どもらしく学び、教師が教師らしく仕事をし、保護者が保護者らしく学校の挑戦に協力する「協同的な学習」を中心としての学校づくりをめざして取り組んでいく。

これまでの調査結果からも、本校の生徒はここ数年、すべての教科で正答率が低い傾向にある。この課題に対して、生徒が自分の考えを伝え合うことだけで終わらず、課題に向き合う活動を通して、**生徒が自分自身の考えの深まりを実感するための指導方法の工夫**とともに、**生徒の読解力の向上**に取り組んでいく必要がある。

各種アンケート結果から「生徒の自尊感情・自己有用感」の項目や、「学校が楽しい」の項目が他の項目よりも低いことがわかる。そのために**本物・一流に触れ将来の夢を抱く取組(大正中央Dream Project)**で進路選択や目標設定のきっかけとして、生徒の自尊感情・自己肯定感の向上を図っていく。